

登米地域の麦作技術情報 第1号

令和7年1月28日発行
Tel 0220-22-6127

登米農業改良普及センター
HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>



登米地域の農業
技術情報はこちら



1 今後の管理について

(1) 排水対策

越冬により衰弱した麦に、融雪水の停滞と高温条件が重なると、湿害を助長します。湿害が生じた状態では、追肥の効果は見込めません。

暗きょが閉じていないか、明きょが排水口につながっているかなどの確認を行きましょう。

(2) 麦踏み

融雪後、ほ場に入れる状況になったら茎立ち前（主稈長2cm程度、幼穂長2mm程度）までに1～2回麦踏みを行きましょう。霜柱によって麦の根が浮き上がっている場合、枯死しやすくなるので、越冬後にはほ場が乾燥したら、直ちに麦踏みを行きましょう。ほ場の土壤水分が高い状態で麦踏みを行うと、土壤が硬く締まり、排水性悪化につながります。麦踏みが可能なほ場の目安は、「ほ場に入り靴の裏に土がつかない程度」「平均気温4℃以上」です。参考にしましょう！

また、鳥害を受けたほ場では、株が引き抜かれて根が浮いていることがあります。その後の凍害や乾燥害を受けやすくなるので、早めに麦踏みを行きましょう。

茎立ち期を過ぎてからの麦踏みは伸びてきた茎を折ってしまうので控えてください！！

(3) 追肥

葉色が低下し黄化している場合や越冬前の茎数が400本/m²（条間25cmの場合、50cm間の茎数が50本）を下回る場合、また鳥類による食害が大きい場合は、茎数確保のため、ほ場が乾いたら早期に株直し追肥（窒素成分1～2kg/10a）を行きましょう。

追肥量の目安

生育ステージ		単位：kg/10a			
		幼穂形成期	減数分裂期	穂揃期	
		幼穂長が2～3mm	幼穂長が3～5cm 止め葉の葉耳間長が±0mm 出穂10～15日前	出穂した茎が80%	
目的		有効茎歩合を高める	1穂粒数を増やす	千粒重、容積重、 子実たんぱく含有率を高める	
大麦	シュンライ	窒素成分	2～2.5	2～2.5	—
	ミノリムギ	現物量 (N: 21%)	9.5～12	9.5～12	—
	ホワイトファイバー	現物量 (N: 46%)	4.3～5.4	4.3～5.4	—
小麦	シラネコムギ	窒素成分	2.5	2.5～5	2.5 (夏黄金: 5kg/10a)
	あおほの恋	現物量 (N: 21%)	12	12～24	12 (夏黄金: 24kg/10a)
	夏黄金	現物量 (N: 46%)	5.4	5.4～10.8	5.4 (夏黄金: 10.8kg/10a)

上記表を目安に適期追肥を行い、有効茎数や1穂粒数の増加、子実たんぱく含有率の増加等を図りましょう。

(4) 雑草防除

近年、春先から気温の高い日が続くことがあり、雑草の発生が目立つほ場が見られます！雑草が大きくなる前に適期防除を行きましょう。

麦類に登録のある茎葉散布除草剤

除草剤名 (農薬名)	適用雑草	使用方法	使用時期	10a当たり使用量 (散布液量)	散布回数
ハーモニー75DF	スズメノテッポウ 一年生広葉雑草	雑草茎葉散布 又は 全面散布	麦類のは種後～節間伸長前	5～10g (100L)	1回
エコパートフロアブル	一年生広葉雑草		節間伸長開始期まで (広葉雑草2～4葉期、 ただし収穫45日前まで)	50～100ml (100L)	2回以内
バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	一年生雑草 (イネ科を除く)		麦類の生育期 (大麦は収穫90日前まで、小麦は収穫45日前まで)	100～200ml (70～100L)	1回
MCPソーダ塩	一年生及び 多年生広葉雑草		幼穂形成期 (ただし収穫45日前まで)	200～300g (70～100L)	1回

※記載した農薬は令和7年1月15日現在のものです。最新の登録情報を確認の上、ご使用ください。